

大浦 周	近現代美術	
おおうら いたる		
	表現主義、ドイツ近現代美術	<p>2年間の本庁(教育局)勤務から近代美術館に戻ってきました。2013年から2021年までの美術館勤務では、主に現代美術の展覧会に携わりました。これまで担当した主な企画展は「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」(2018年)、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(2020年)、「ボイス+パレルモ」(2021年・共同企画)など。</p>

菊地真央	近現代美術	近代美術館に勤めて7年目になります。今年度はアーティスト・プロジェクト#2.08を担当します。収蔵品については、日本画・工芸・資料などを担当しており、今後近代日本画の展示機会を積極的に増やしていきたいと考えています。
きくちまお		
	日本の近代美術	

五味 良子	近現代美術史	昨年度まで、美術館勤務で常設展・収蔵品と企画展を担当していました。 本年度からは、文化財・博物館課に異動し、主に銃砲刀剣類の登録業務に携わっています。
ごみ りょうこ		
	視覚文化交流史	

佐伯 綾希	近現代美術	
さえき あやき		2020年から近代美術館で勤務し、企画展担当に所属しています。これまでに、「美男におわす」(2021)、「シ アトル→パリ 田中保とその時代」(2022)、「アブソリュート・チェアーズ」(2024)などの企画展、および「アー ティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽 遠回りの近景」(2023)に携わりました。
	イタリアの近代美術	本年度はMOMASコレクション「シュルレアリスム宣言100周年」を担当するほか、企画展「メキシコへのまなざし」の副担当を務めます。 美術作品を通して、世界の多様な見方を伝えられたらと思っています。

<p>鳴原 悠</p>	<p>近現代美術</p>	<p>2015年より近代美術館に勤務し、企画展担当に所属しています。日本の近代美術や、近現代の博物館の歴史や制度などに関心があり、現在は、特に戦前から戦時下の埼玉県における美術についても調査を進めたいと考えています。</p> <p>これまで担当した主な企画展は、「扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」(2022年)、「桃源郷 通行許可証」(2022年)、「イン・ビトウィーン」(2023年)など。また、視覚障害のある方へ向けた鑑賞プログラムも担当しています。</p>
<p>しぎはら はるか</p>	<p>日本近現代美術</p>	
		

平野 到	近現代美術	
ひらの いたる	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	<p>現在は学芸部全体を統括しながら、展示事業などにも関わっています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「浮遊するデザイナー—倉俣史朗とともに」(2013)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「インポッシブル・アーキテクチャー」(2019)、「大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！」(2021-22)などの企画展に携わりました。今年度は、深谷市出身の美術家・吉田克朗の回顧展を担当する予定です。</p> <p>新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。</p>
		

吉岡 知子	近現代美術	
よしおか ともこ	日本近代美術	<p>2008年より近代美術館に勤務し、教育局文化資源課(2020-21年度)を経て、現在は近代美術館で企画展の統括の仕事をしています。</p> <p>主な関心領域は日本近代美術、地域美術史で、これまでに「原田直次郎展」(2016年)、「森田恒友展」(2020年)などを企画、担当しました。</p> <p>今年度は、1950年代の日本におけるメキシコ美術の受容に焦点を当てた企画展「メキシコへのまなざし」を担当します。</p>
		

佐藤 あゆか	現代美術	
さとう あゆか		
	戦後のアメリカ美術	<p>2022年度より近代美術館に勤務しています。常設展・収蔵品担当として、常設展の運営やコレクションの管理を行っています。今年度は、MOMASコレクション「戦後日本美術の開拓者たち」と企画展「没後30年 木下佳通代」を担当するほか、「ミュージアム・シアター」の開催に携わります。展示やイベントの企画・実施を通して、より多くの人に現代美術の面白さを伝えていきたいと思っています。</p>

西尾真名	近現代美術	
にしお まな		
	日本近代美術	<p>近代美術館に、2024年度に着任しました。今年度は常設展・収蔵品チームにて、MOMASコレクションや他館への作品貸出しのサポートに関わります。展示では、来春のMOMASコレクションの「セレクト」コーナーを担当する予定です。</p> <p>日本の30-40年代の芸術動向に関心があります。広い意味で埼玉と関わる作家を調査・研究し、将来的には展覧会としてお届けできればと考えています。</p>

篠原 優	近現代美術	
しのはら ゆう	近現代美術、西洋美術	<p>近代美術館には2023年度より勤務しています。本年度は教育・広報チームの一員として、主に学校連携やワークショップのサポート、広報業務を行います。学芸業務としては、秋のMOMASコレクション「セクション」コーナーを担当したり、企画展「メキシコのまなざし」に副担当としても携わります。多くの方に美術館に足を運んでいただけるよう、積極的に普及活動に取り組んでいきたいと思ひます。</p>
		